



VOL.17 No.2 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1984.6.1

琉球大学附属図書館医学部分館の 建物は完成しました

医学部分館長 金城清勝

琉球大学附属図書館医学部分館の建物は、3月末に完成し、5月7日より一部開館し、皆様の御利用に供することが出来ました。一部と申しましたのは、与儀の臨床部門の移転が7月になることと、分館の建新が、59年度分になりましたので、書架、机、椅子等がないためです。一部開館にこぎつけるには、図書館、医学部の御厚意によると感謝しております。

分館は医学部の諸建物にかこまれた中庭を中断する場所に位置し、環境整備が完了すると、さぞかしすばらしい場所になることと期待しております。現在でも分館玄関よりのながめは、起伏にとんだ芝庭で、心がなごむながめです。分館の総面積は1,400平方米(図書館の約 $\frac{1}{4}$)の二階建こげ茶色の建物です。

与儀にあります図書室も7月初めには移転できますので、夏休みに整備し、9月には全

目	次
琉球大学附属図書館医学部分館の建物は 完成しました……………金城清勝…1	図書資料(大型コレクション)の 利用案内(昭和57~58年)……………7
医学部分館の概要……………3	本学教官著書寄贈コーナー……………8
ブラウジングコーナー……………4	昭和59年度講演会・映画会案内……………8
琉大14年……………呉屋初枝…5	投書箱より……………9
	図書館事情……………10

館開館にこぎつけたいと思っております。

分館は閲覧室に書架があり、自由に利用できるオープン・システムで、医学、保健学に関係する専門図書館です。1階が雑誌、2階が教科書、参考図書、単行本などを配する予定です。閲覧室のほか、セミナー室、視聴覚室、情報管理室があります。セミナー室はグループ学習を考え、つくりましたので、学生諸君の十分な利用を期待して居ります。分館は医学保健学の専門図書館ですが、医学保健学に関係する生物学の図書、雑誌もありますので、琉大関係者は勿論、学外者にも利用いただけたらと思っております。分館の一つの特長は、将来、強い要望があれば、ドアのカギをつけかえると無人開館が出来るような構造になっている点です。これは、特に臨床医が夜半、日曜日などに急にしらべたい状況に対応できるようにとの事です。視聴覚、コンピュータ関係は、年次計画で整備していかなければならない点多々あると思っておりますが、一つ一つ解決してゆきたいと思っております。

勿論、閲覧室内は静粛でなければいけません、図書館内ではすべて無言でいなければならないでは息がつかってしまいます。閲覧室とはガラス戸でしきった場所に、ラウンジをつくりました。閲覧室よりできるだけはなしたかったのですが、せまい分館ですので充分ではありませんが、読書にじゃまにならないように自由に談笑して下さい。将来は、なんとかしてそこに、新聞や一般雑誌も少しはそなえたいと思っております。

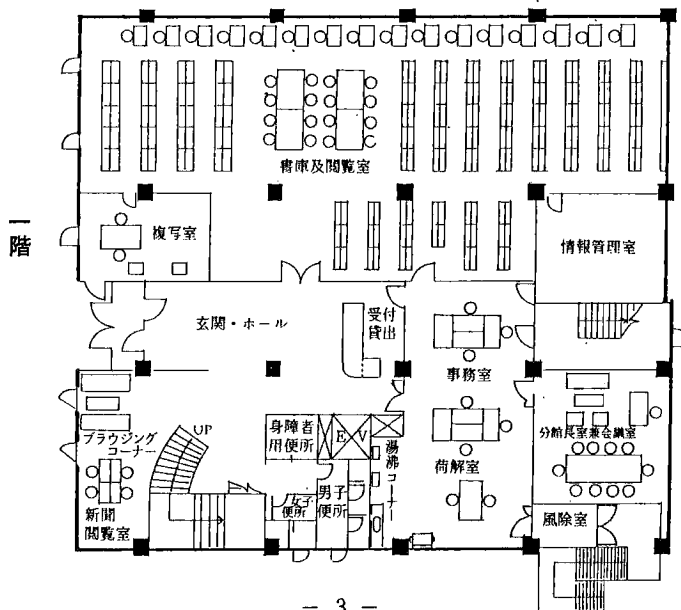
日本の医学図書館は、専門書以外は辞書類をのぞいては、一般教養書はおいていないのが実情ですが、はたしてそれでいいのかと私はひそかに思っております。医者は病気をなおすのが本業です。これに疑問の余地はありません。しかし病人は病気にかかりなやんでいる人間です。それに対する医者は人間味ゆたかな、心豊かな人間であってほしいのです。かかる医者をつくる学校の医学図書館には、一般教養書も必要ではないでしょうか。幸い、本学図書館があるからいいのではないかとも思いますが、医学部は少しはなれた場所に位置し、気軽に本館利用はできがたいのです。全国の医学図書館の、蔵書数は平均10万冊弱ぐらいだと思いますが、一般教養書は、辞書類をのぞき、数十冊から二、三百冊で、誰も不思議には思っておりません。それでいいのかと時々思ったりしております。新聞、雑誌、一般書を少しはいれたいと思っております。金をともなうことですので、困難はあると思っておりますが、なんとかして少しづつ実行し、病人にしたわれ、たよりになる医学関係者の養成の一助になればと思っております。

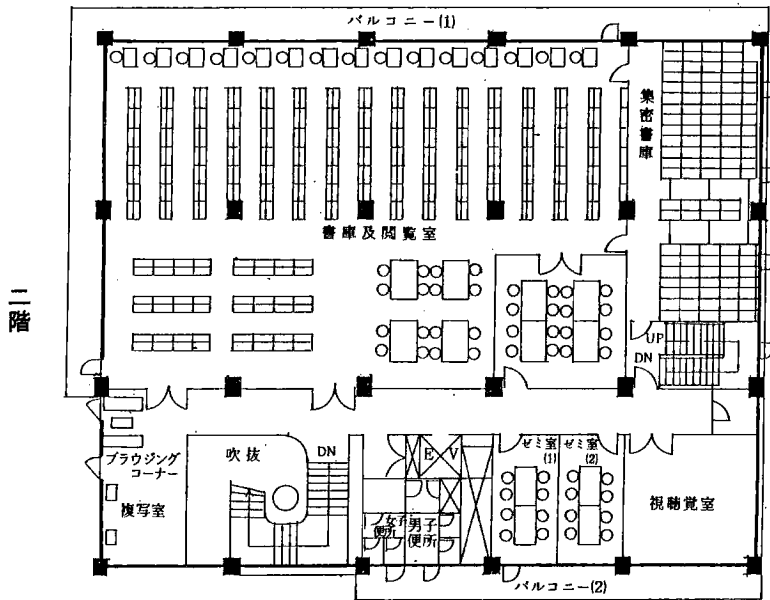
(きんじょう きよかつ：医学部教授・生理学)

医学部分館の概要

- | | | |
|--------------------------------------|------------------------|----------|
| 1. 蔵書数 (昭和59年4月1日現在) | 4. 書架収容冊数 | 76,000 冊 |
| 図書 和書 20,453 冊 | 5. 主要設備 | |
| 洋書 24,808 冊 | ① 空調設備 全館7系統 | |
| 計 45,261 冊 | ② エレベーター 1台 | |
| 雑誌 和雑誌 110 種 | ③ 集密書架(手動型) 1式 | |
| 洋雑誌 409 種 | | |
| 計 519 種 | | |
| 2. 施設 | 6. 組織機構 | |
| ① 構造 鉄筋コンクリート2階 | ① 2係(整理係, 閲覧係)定員6人 | |
| ② 延面積 1,403 m ² | | |
| ③ 用途別面積 | 7. 利用対象者数 | 8,093 人 |
| ① 閲覧スペース 229 m ² | ① 教職員 678 人 | |
| ② その他のサービススペース 189 m ² | ② 学生 715 人 | |
| ③ 書庫 513 m ² | ③ 地域医療関係機関 6,700 人 | |
| ④ 事務スペース 127 m ² | 8. 開館時間(当分の間) | |
| ⑤ その他 345 m ² | 月～金 8:30～19:00 | |
| 3. 閲覧席数 | (各休業中は17:00まで) | |
| ① 一般閲覧室 107 席 | 土 8:30～17:00 | |
| ② 新聞閲覧室 79 席 | (各休業中は12:30まで) | |
| ③ ゼミ室 12 席 | | |
| 16 席 | | |

医学部分館平面図





ブラウジングコーナー

明 倫 堂

明倫堂は程順則の建議により、1717年に創立された琉球における最初の高等教育機関であり、その文庫は大学図書館の源流と見なすことができる点で興味深いものがある。

「明倫」とは大漢和辞典によれば「人倫を明らかにすること」、又、「明倫堂」とは「孔子廟側に設けた学校の名。中国ではもと儒教を以って国教としたので、各地の学宮に孔子を祀り、其の大殿を明倫堂といった。」更に「正保四年、徳川幕府が長崎に設置した学校。」と出ている。ところが、長崎市制六十五年史には明倫堂の字句は見当らなかったが、次の記事が見つかった。「第六部官公衛 14教授所 (一) 聖堂一正保四年(一六四七) 向井元升が長崎東上町一六三坪の地内に二二坪八合の囲塀、二間四方の聖堂を建て幕府の直轄儒学の学校を創設した。」とあって正しく明倫堂があったのである。琉球の明倫堂創建よりさかのぼること130年である。また藩費として有名な名古屋藩の明倫堂は1748年に開学しているので、琉球の明倫堂より31年おくれている。その後各地に明倫堂ができていくが、その藩名を上げてみると次のとおりである。金沢藩(石川県)、新庄藩(山形県) 上田藩(長野県)、小諸藩(長野県)、安志藩(兵庫県)、高鍋藩(宮崎県)等である。明倫堂の字が示すように、昔の教育は、今様に言えば、道徳教育が主流であったようである。

(閲覧係 T. Y.)

琉 大 14 年

呉 屋 初 枝

琉大ができた1950年5月生まれの私が第何回琉大祭というのを見る度に自分の年令を思い出させられて苦笑している間に、琉大との関わりは学生の頃の4年間を含めると、早14年になってしまった。18の時から34になった今年まで、就職浪人の1年間を除いてずっと琉大との長いつきあいである。

長いつきあいのうちでも、やはり学生の時の4年間が一番印象深い。その頃の琉大はまだ琉球政府立の琉大で、今受験し直したらとてもとてもというような私でもなんとか琉大生になれたのだった。琉大に入れたらヤマトに行かずにすんだし、うまくいけば沖縄で就職できたし、一生沖縄で暮らす事ができるのでこんないい事はないと思っていたような気がする。ヤマトへ行きたいという強い憧れの一方でずっと沖縄にいたいという気持があったようだ。だから沖縄人ばかりのクラスメート達とほとんど沖縄人ばかりの教官の中でぬくぬくのんびりと怠けながら学生をやっていた。それでも図書館へはよく行った。授業のない時間はどこへも行きようのない無趣味人間だったので、たいてい一階に本を読みに行った。するといつも必ず同じ所で本を読んでいる青年が居て何かホットしたものだ。青年という程若くは見えなかったが、いつも白いシャツを着てどういう訳か窓際の席に窓に背を向けて腕組みしたままで本を読み、たまに顔を上げてあたりを見回すのだった。最初は見せびらかし屋のいやな男だなあとと思った。それでも行く度に居るので努力家なのかなあと考えた。そのうち慣れて何とも思わなくなっている間に、突然姿を見なくなってしまった。ずっと後で人から聞いたところによると、大変な秀才で、休学して毎日図書館で本を読んでいたらしい。卒業してどうなったか聞いたけれど忘れてしまった。それでも顔はよく思い出せないけれど、本の上にかがみ込んでいた姿ははっきり思い出せるくらいだからとても印象が強かった。友人の中にも見た事があるという人が多い。一言も口を聞いた事もないのにみんなが知っているというのも何か不思議な気がする。

不思議と言えば、学生時代にはいろいろ不思議な人が多かった。高校の時には只受験に追われて周りを見る暇もなかったが、琉大に来てみると、いろいろ変った人に会った。とても不思議だったのが、誰にでも親切で絶対に怒らない男の人が居た事で、私は初めて見ると思った。クラスの新生歓迎のピクニックで初めて見たその先輩はまるで10年も前から知っているように私達に話しかけ、子供のように棒を拾って振り回し、集合時間に遅れた人達を少しもとがめず行列の後になったり先になったりして世話を焼いた。こんな他人の為にだけ行動するようなタイプの間人は初めてだったので私は目を見張った。先輩はあるクラブの部長で、どういう訳かそのクラブは同じように誰にでも親切で決して怒らない人達だけが集った。私も先輩のクラブに入っていればもう少し人格者になれたものをと今思うと残念である。

さて、私の琉大の学生だった時代は1969年から1973年まで、まさに70年代の真只中

だったので、大学では何一つ身につかなかったとしても、あの時代を生きたという事は、私の最大の自慢となっている。

今の自分と言えば育児にかまけて組合の大会以外はどこにも行った事がない。「戦争を許さない女達のつどい」などという必要最低限の集会にも、連れていった子供が途中で泣けば平気で帰って来る始末である。そんな自分が70年代はどうだったこうだったと後から来る人達に自慢したり、先に通り過ぎた人達にくどくどと言うつもりは毛頭ないけれど、やはり70年代の事を書こうとすると、心が平静でいられなくなる。

70年がどうであっただろうと、80年もまだそういう運動の中にいる人達もあるなかで、自分のようなタイプは早々と社会人という隠れミノの中に引き込んで、善良な一市民になり下った事を百も承知の上で、70年に見たものを少し書いてみたい。

70年に私が見たものと言ったら、政治というのは只の人間が動かそうといて、動かせて、それでいて動かさないという事だ。

沖縄の本土復帰についていろいろな人が深く考え書き、まだ書き続けているなかで、私は復帰運動が、沖縄人達が行動して日本政府というものを動かそうとになって、確かに動かして、それでいて自分達の思い通りには動かせなかったと、その一番の例のような気がする。こんなに切実に要求しているものを、まさかまんまと逆手に取ってやられるとは思わなかったというようなそんな素朴な気持ちだ。

結局は政治の力の恐しさを思い知らされたというのが私の見た70年だったのだろうけれど、そう言い切ってしまうには何か寂しい。それは自分達の努力が無駄とは思えないからだ。切実に願い要求し生命力を燃やす事に人間の尊さを見たような気がするからだ。

琉大の学生の時に学んだ事からはその後の自分に一つは思い出として残り、もう一つは生涯の課題として残った。政治への関わりをずっと持ち続ける事、これはとても厳しい。まして逃げる一方の今の自分にとってはこんな辛い課題はない。それでも今の社会がどこへ流れていくのかじっと見ていかなければならない事は言うまでもない。

国立移管した後の琉大は、大学の4年の後半期と1年後の事務職員として就職した琉大である。復帰が非常なショックだったから、琉大が国立に移管した事など、私にとってほとんど気にならなかったようである。反復帰論者の論にはむつかしくてついていけなかったし、「米が2倍になる。芋、ハダシになる」は横目で眺めても、親達の305円換算への恐怖と一緒にしておびえる事しかできなかった。

5月15日の雨の日を、「まだドル使えますか」とバスに乗りながら、沖縄はどうなるか、沖縄人はどうなるかと考えていた。

就職浪人の末、琉大に職が決った2年後にはもう復帰ショックは直っていた。円でもらった初任給「3万5千円」を数える手付ももう日本人と変らなかった。

理工学部、事務局、農学部と職場は変わったが、琉大の中でも図書館が好きな人が多いように私も図書館が好きだ。本を読む事は数少ない幸福の中でも最大の幸福だと、あの窓際の白シャツの青年は言っていたのではなからうか。高校の時の高い天井でもうず暗い図書館から解放されて、窓いっぱいガラスから光があふれていた琉大図書館に来た時の感激を忘れる事なくこれからも図書館通いを始めたいと思う。(ごや はつえ：農学部会計係)

図書資料（大型コレクション）の利用案内 （昭和57～58年度）

大型コレクションは、各国立大学が文部省に申請して、全国共同利用の目的で購入された資料であります。ご利用下さるようご案内します。なおご利用については参考調査係（内線2143）におたずね下さい。また購入が開始された昭和53年から同57年までの受入目録については本館報16巻3号（83.9）をご覧下さい。

昭和57年度

大学名	資料名
筑波	The Private Library of Porfirio Diaz, President of Mexico （旧メキシコ大統領ディアス旧蔵コレクション）
千葉	Collection De Documents Inedits Sur L'Histoire De France 325 vols.
東京商船	Transportation Masterfile 1921～1971 マイクロ版（運輸問題 関連文献集成）
東京外国語	Collections of Persian Studies（ペルシャ研究基本文献コレクション）
東京農工	農業教育用視聴覚資料
愛媛	世界経済関係資料

昭和58年度

小樽商科	Moniteur Universel（1789～1832）
東京外国語	朝鮮日報（1921～1979）
東京芸術	音楽学学位論文集（Doctoral Dissertation on Musicology）
東京商船	Lloyd's Law Reports.（ロイド海事判例集）vols. 1～84（1919～ 1980）注：1919～1967年はLloyd's List Law Reports. となっ ている。
京都市芸繊維	Jan Toorop（1858～1928）研究資料
香川	Revue Philosophique de la France et de l'Etranger vols. 1～ 167（1876～1977）
熊本	民国二十年代中国大陸土地問題資料
琉球	Bulletin of U.S. Bureau of Education（1906～1959）217 Vols.

〔本学教官著書寄贈コーナー〕

今回は、昭和59年3月10日より昭和59年5月28日まで御寄贈頂きました分を掲載致します。(敬称略)

- | | |
|------------------|--|
| 石川清治 (学校図書館学) | 「沖縄の幼稚園児のことばの能力」名護幼児教育同好会 1978. |
| 尚 弘子 (栄 養 学) | 「沖縄産甘蔗成分の白ネズミ血清および貯蔵脂質に及ぼす影響」1982. 学位論文 |
| 仲間勇栄 (林 学) | 「沖縄県の林野制度と林野利用に関する史的研究 I, II」1983. 学位論文 |
| 大田昌秀 (広 報 学) | 「復帰後における沖縄住民の意識の変容」1984. |
| 篠原武夫 (森林経理学・林政学) | 「林業経済 No.416」林業経済研究所 1983.
「グリーン・エージ No.119」日本緑化センター 1983.
「森林組合 162号, 163号」全国森林組合連合会 1984.
「林経協月報 268号, 269号」日本林業経営者協会 1984. |

昭和59年度講演会案内

本学教授職員会後援による講演会は、これまで多くの教職員や学生が深い感銘をうけて参りましたが今年度は下記の通り予定しておりますのでお知らせします。

4月25日

講演者：高良鉄夫 (応用動物学) 本学名誉教授

演 題：琉球列島におけるハブ属の奇異な分布について

6月21日

講演者：渡嘉敷綏宝 (家畜繁殖学) 本学名誉教授

演 題：哺乳動物の生殖現象

11月

講演者：尚 弘子 (栄養学) 教育学部教授

演 題：沖縄の長寿者と栄養

1月（昭和60年）

講演者：木崎甲子郎（地殻学）理学部長（前図書館長）

演題：未定

昭和59年度映画会案内

昭和57年10月以来、これまで一般映画を上映して参りましたが、今年度からは学術及び教育的フィルムを、教育及び研究資料の一助として上映していきたいと思ひます。

5月24日

①光ファイバー・ケーブル伝送方式 ②衛星通信

10月

①光あふれる沖縄 ②芭蕉布を織る女たち

11月

未定

12月

①奄美の森の動物たち — 自然をさぐる — ②カエル— 遺伝発生学の開拓

1月（昭和60年）

①アイヌの川漁 ②ニホンザルの自然社会

投書箱より

今回は2月から4月までの投書についてお答えします。

1. 書架整理、図書配架等の際騒々しい。
 - 職員間で注意するようにします。
2. 2階閲覧室を10時まで開けてほしい。
 - 現在通常9時まで、土曜日は4時30分まで開館していますが、夜勤者は12時間勤務です。10時までになりますと13時間勤務となり、帰宅は深夜になりますので無理です。
3. ブラウジング・コーナーの喫煙コーナーを制限してほしい。
 - ご意見のとおり窓際だけに制限しました。
4. 長期休暇中および行事のある時も夜間開館してほしい。
 - 長期休暇中又は行事のある日は創立以来夜間開館はしていません。人件費、光熱費等の予算の関係もありまして、現行どおりの開館しかできませんので、ご了承下さい。

5. 続群書類従 29輯（下）の欠号補充について
 - 双書ものは、セットでないと売ってくれないので大変困っております。一冊でも売ってくれる古書店をみつけ、早めに入手したいと思います。
6. 雑誌の貸出及び複写料金について
 - 図書館資料には禁帯出または帯出を制限している貴重な資料があります。（附属図書館閲覧規程第8条）学術資料は貴重な資料で、破損、紛失の場合、補充が困難で帯出を制限しております。館内で大事に利用して下さい。複写料金は国立大学統一料金（文部省）となっていて、大学独自で料金変更はできません。安くなるよう努力します。
7. 地方紙（新聞）の購入について
 - 一部の学生のために一地方紙（新聞）を購入してよいかどうか問題があります。また予算の面からも現在のところ購入できません。
8. 禁帯出ラベルの貼付場所について
 - 気をつけてラベルを貼ってありますが、やむをえない場合もありますので御了承下さい。なおラベルの表記が消えかかっているものについては書きなおしております。

図 書 館 事 情

〔第155回図書館運営委員会〕

日時：昭和59年4月16日（月）10：30～11：55

場所：図書館会議室

議 題

1. 昭和59年度前期図書館運営委員会の定例日について
2. 委員長代行の指名について

報告事項

1. 国立大学の附属図書館に置く分館を定める訓令の一部を改正する訓令の制定について
2. 附属図書館諸規則等の制定及び一部改正について
3. 図書館の環境整備及び植栽について
4. 琉球大学附属図書館要覧の発刊について

<出 張>

- 59年2月16日（木）整理係松原敏夫、ジャパンマーク利用者懇談会出席。東京、17日まで

- 59年 2月26日（日）参考調査係長新井裕丈 J O I S 研修会参加。福岡，3月1日まで
- 59年 3月 5日（月）受入係長崎浜文枝，沖縄関係特殊資料の受入について調査。東京 7日まで
- 59年 3月12日（月）受入係豊平朝美，受入業務の電算化について調査。名古屋，14日まで
- 59年 3月12日（月）図書係本郷清次郎，図書館業務の機械化についての研修。福岡 14日まで
- 59年 3月13日（火）閲覧係長山田勉，情報検索ネットワーク並びに返本督促のコンピュータ処理等について調査。松山，15日まで
- 59年 3月21日（水）事務長平良恵仁，アフリカ，アジア資料の展示目録及び展示方法について調査。大阪，23日まで
- 59年 3月26日（月），総務係長友利彦一，図書係仲西盛秀，図書館業務電算化並びに医学部分館関係事務研修。浜松，28日まで
- 59年 4月23日（月）館長瀬名波栄喜，事務長平良恵仁，第14回九州地区国立大学図書館協議会，第35回九州地区大学図書館協議会総会出席。長崎，26日まで

第14回九州地区国立大学図書館協議会

協議題

1. ファクシミリ導入経費の早期新設の継続要求について
2. 九州地区国立大学図書館間における広域人事交流について
3. 学術情報センターの早期設置について
4. 学術情報システムに対応する図書館職員の研修について
5. 昭和58年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議について
6. 第31回国立大学図書館協議会総会への提出議題について
7. 次期（昭和59年度）国立大学図書館協議会等の役員館の選出及び第35回大学図書館協議会の役員館の選出について
8. 第15回（昭和60年度）九州地区国立大学図書館協議会の当番館について

第35回九州地区大学図書館協議会総会

協議題

1. 九州地区内における文献複写の申込みについて
2. 協議会入会に関する細則第4の入会基準の緩和について

<見学者>

- 昭和59年 2月27日（月） 沖縄国際婦人会（20人）
- 昭和59年 3月10日（土） 那覇高等学校図書委員研修生（11人）
- 昭和59年 4月25日（水） 浦添市役所員（5人）

<来館者>

- 昭和59年2月14日(火) 延世大学教授王氏
- 昭和59年2月28日(火) 立正大学教授落合氏
- 昭和59年3月16日(金) 京都大学庶務部長松村氏, 和歌山市民図書館専門員野口氏

<講演会>第14回

昭和59年4月25日(水) 14:00~

講演者: 高良鉄夫(応用動物学) 琉球大学名誉教授

演題: 琉球列島におけるハブ属の奇異な分布について

<その他>

- 昭和59年4月16日(月) 英詩朗読会, Charles Makino-Bentley氏
- 昭和59年4月27日(金) シェークスピア展 5月4日まで
- 昭和59年5月21日(月) 「現代日本詩について」講演, ユタ大学米文学教授, Edward G. Lueders氏

琉球大学附属図書館報“びぶりお” 第17巻 第2号〔通巻第63号〕

昭和59年6月1日発行

発行人 平良恵仁 沖縄県中城村字南上原858

電話(09889)5-2221 内線(2143) 編集 参考調査係